



福島医大病院ニュースレター

編集・発行/附属病院患者サービス向上委員会

〒960-1295 福島市光が丘1番地 / TEL (024) 547-1111 ホームページ <http://www.fmu.ac.jp/byoin/index.php>

病院長新任挨拶



附属病院病院長
鈴木 弘行

皆様はじめまして！
2019年4月1日付けで病院長を
拝命いたしました。
紙面をお借りしてご挨拶申し上
げます。

当院は県内で唯一の特定機能病院であり、都道府県がん診療拠点病院や災害拠点病院をはじめとした多くの拠点病院として県民の皆様へ高度医療の提供を行っております。加えて当院では医師、看護師を始めとして様々な医療人の教育や、研究機関として先進的な医療技術の開発にも積極的に関わっております。まさに福島から世界へ発信できる医療を実践しています。そして当院のもう一つの大切な役目は地域医療への貢献です。この広い福島県の医療を支えるため、地域の医療機関と密接に連携をしながら県民の皆様的心と身体を守り、安心を提供して参ります。

当院には毎日約1500人の外来患者さ

んが受診されます。さらに日々約600名を超える患者さんが入院されていらっしゃいます。患者さんは病という敵と日々戦っておられます。私達は患者さんの病気を治療することはもちろん、傷ついた心とも真摯に向き合い、寄り添っていきたくと考えております。当院の基本理念は「健康を支える医療・心温まる医療を目指して県民と共に歩む」ことであり、病院の合言葉は「誰からも選ばれる明るい病院、みんなが集まるみんなのための病院」です。これらの理念を実践するために、約600名の医師、約870名の看護師、約500名の技師、事務職員が垣根を越え、心と力を合わせて患者さんのために日々がんばっています。今後もたゆまない努力と研鑽を続けて参りますので、どうぞよろしく願います。



今年度新採用・転入看護師さんと一緒に

第46号のなかみ

- 1 ページ…○病院長新任挨拶
- 2 ページ…○新任挨拶
- 3 ページ…○新任挨拶

- 4 ページ…○生殖医療センター新設紹介
- 「看護の日」に寄せて

マチのほっとステーション
LAWSON

ローソン福島県立医科大学附属病院店（エレベーターホール隣）
ローソン福島県立医科大学店（7号館内）

病衣・タオル・紙おむつ・日用品・付添寝具

手ぶらで入院・手ぶらで退院
入院セットレンタル

お申込・お問合せ先：レンタル受付窓口
024-548-8777



* 院内1階、入退院受付横 9番窓口
月～土曜日 9:00～17:00(日祝祭日休日)
土曜日はきぼう棟1階ローソン南側にて営業します。



新任挨拶



副病院長 風間 順一郎

中央診療部担当の副病院長を拝命した風間と申します。新潟県の田舎の出身です。子供のころは、先生に「危ないので電線に触れたり跨いだりしてはいけません」と注意されたほどの豪雪地帯で育ちました。

専門は腎臓内科です。ただ、検査値と睨めっこしたり顕微鏡を覗き込んだりする知的なイメージは全くなく、前任地では集中治療部、高次救命救急センター、血液浄化療法部などの中央診療部で専従医としてスクラブに返り血を浴びる生活を送ってきました。その結果、どこでも寝られ、呼ばれたらその瞬間に覚醒して動き出し、いかなる状況にも全くびびらない、という



副病院長兼看護部長 渡邊 美恵子

平成31年4月より、公立大学法人福島県立医科大学附属病院副病院長兼看護部長を務めさせていただいております。

看護部は、「県民の健康を守るため豊かな人格と感受性を持ち、質の高い看護を提供します」を理念とし、日々、看護を提供しています。

当院は、福島県の特定機能病院として、先進医療の提供に加え、超高齢多死社会を見据えた地域包括ケアシステムに対し、地域との連携強化、患者の意思決定支援、チーム医療の推進への対応が求められています。看護部もこの社会・医療の変化、そして院内の変化に柔軟に対応し、看護部の役割を果たしていくことが求められています。



呼吸器外科 部長 塩 豊

平成31年4月より福島県立医科大学附属病院呼吸器外科部長を拝命いたしました塩豊と申します。

外科は手術を行う診療科の事ですが、呼吸器外科は外科の中でも肺とその周囲の病気を担当しています。主な対象疾患は肺腫瘍（原発性肺癌、転移性肺腫瘍、良性肺腫瘍）、気胸、膿胸、縦隔腫瘍です。

当科のスタッフは院長以下ベテランから若手まで9名の医師が在籍し、1年間におよそ240件余りの全身麻酔下の手術があり、その中で原発性肺癌は130件余りです。

傷が小さく低侵襲となる胸腔鏡下手術を積極的に導入しており、1月からダビンチを使用したロボット支

修羅場鉄火場向きキャラが染みついています。同僚たちと肚を割ることも得意です。

また、診療科横断型ワンダーランドで外科医たちと怒鳴り合い上等の濃密な付き合いをしているうちに、内科系と外科系の診療哲学やスピード感の違いを身体で覚え、そのどちらにも肩入れせずに診療を俯瞰できるようになりました。これらは再び中央診療部に籍を置くにあたって自分の武器になってくれることと思います。

このたび担当する検査・栄養・薬剤・情報などは、臨床工学畑出身の私には比較的馴染みが薄かった領域です。だからどうしたというのですか。いつになっても未知の領域にチャレンジできることは幸せです。

中央診療部のパフォーマンス向上に寄与することで福島医大附属病院の発展に貢献したいと願っています。よろしくお願ひ申し上げます。

看護部は院内で最大の組織であると共に、患者様の一番近くにいる存在です。

患者様の意思決定を支えながら、さらなるチーム医療を推進として、医療スタッフの中でコーディネーターとしての役割を果たせるようにしていきたいと思ひます。

また、職員一人ひとりの思いを大切にし、お互いを承認し合うことで、ともに成長し、人間性を高め合うことができる組織を目指しています。

そして、看護職一人ひとりが高いモチベーションをもち「看護の質向上」を常に考え、キャリアアップでき、専門職としてやりがいを持ち、働き続けられる職場環境とすることを自分の使命として、自己研鑽していきたいと思ひています。

今後とも皆様のご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願ひします。

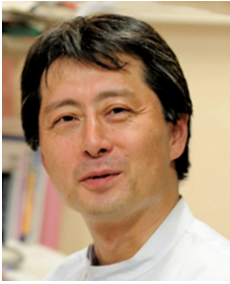
援下手術も開始しています。

福島県内では随一の充実した各診療科と連携した拡大手術も多く実施しています。

当科のスローガンの一つに「簡単にあきらめない」を掲げております。すなわち手術単独では治す事が難しい肺癌に対して化学療法、免疫療法、放射線療法を組み合わせた集学的治療を積極的に導入しており、術後の補助療法は近隣に紹介せず我々自身が担当しています。

また、多くの全国的、国際的な臨床試験にも参加していますので患者さんには協力をお願いしています。いまでも手術中から手術後の合併症発生率は全国レベルよりも低く誇れる状況にはありますが、これからも手術成績の向上をはかり若手には特に手術の技術を継承して永く県民医療に貢献できるように努めて参ります。皆さまどうぞよろしくお願ひいたします。

新任挨拶



心臓血管センター 部長 桃井 伸緒

近年の循環器病の診断・治療技術は、目覚ましい進歩を遂げています。一方で、福島県は厚生労働省発表の急性心筋梗塞死亡率が男女ともにワースト1位であるなど、この分野における予後改善が課題となっています。

当院では365日24時間体制で急性期の診療にあたり、重症例に対しては、機械的補助循環、開心術、植え込み型人工心臓、各種カテーテル治療などを積極的に適用して、救命率の向上に努めています。このような先進的医療の実施にあたっては、他職種間によるチーム形成が必須であり、診療科や職種の垣根を超えた協力体制が必要であり、この目的のもと、心臓血管センター



生殖医療センター 部長 菅沼 亮太

平成31年4月1日付けで生殖医療センター部長を拝命致しました菅沼亮太と申します。

人口減少は日本全体の課題であり、福島県も例外ではありません。本県におきましても、案心して出産でき、育児しやすい街づくりは最重要課題の一つです。本学は医療と健康の面から福島県を支えることを使命としており、その取り組みの一環として、「生殖医療センター」の開設となりました。

生殖医療の進歩や応用分野の拡大はめざましく、体外受精・顕微授精の技術や配偶子・胚の凍結保存技術は若年がん症例に対する妊孕性温存療法などにも広く応用されています。生殖医療センターでは、不妊治療のみならず将来子どもを希望される若年がん症例に対



臨床研究管理部 部長 斎藤 純平

この度、平成31年4月1日付けで福島県立医科大学附属病院の臨床研究管理部部長を拝命いたしました。臨床研究管理部は、平成30年4月から施行された特定臨床研究に係る業務を管理・支援し、適正かつ円滑な実施を

図ることを目的に病院長直轄の組織として平成31年4月に新設されました。

現在、医師2名、看護師1名、薬剤師1名、事務員2名の計6名で業務にあたっております。主な業務として、臨床研究法に基づく臨床研究に関する、①実施の病院長承認（新規申請・変更・中止など）、②病院長への各種報告（実施計画、疾病等・不具合・不適合・定期報告など）、③教育（PI講習会、ICRWebの

を開設しています。

センターの主な診療内容は、急性冠症候群の集学的治療、先進的医療への対応、植え込み型人工心臓等を用いた重症心不全患者の治療、成人先天性心疾患の診療、がん診療と循環器診療の連携推進などがあります。循環器内科、心臓血管外科、小児科、麻酔・疼痛緩和科、リハビリテーション科、救急科、小児腫瘍内科などの医師が協働し、これに看護師、臨床工学士、理学療法士などが加わり、センターを構成しています。

センターの部長は、各診療科が交代しながら行っていますが、本年度は小児科が担当させていただくことになりました。

今後も患者様に寄り添った医療を提供していきけるように尽力していく所存です。皆様、どうかよろしくお願いたします。

する対応など、これまで以上に幅広い需要に応えるため、関連する診療科（女性不妊に対する産婦人科、男性不妊に対する泌尿器科、若年がん治療における腫瘍内科や各診療科）が協力し横断的かつ円滑な診療が可能な組織作りを目指していきます。また福島県の助成を受け、当センター内に「不妊相談専門センター」を設置致しました。どなたでも相談可能な生殖医療の相談窓口ですので皆様どうぞお気軽にご相談下さい。

当院は1994年に国内初の顕微授精＝卵細胞質内精子注入法（ICSI）による妊娠出産に成功しており、引き続き難治性不妊症例に対する治療方法の確立に注力していくと共に、手術療法を含めた一般不妊治療にも力を入れ、バランスのとれた生殖医療を提供していきます。

「安心して妊娠・出産・育児のできるふくしま」の実現にむけ、県民の皆様が高水準の生殖医療の提供できるようスタッフ一丸となって頑張っておりますので、皆様どうぞよろしくお願い申し上げます。

e-learningなど）の認定、④臨床研究指導員の認定および定期報告の依頼と管理、⑤苦情や問い合わせの対応、⑥研究期間終了後の記録保存、⑦外部モニタリング・監査の受け入れを行っております。

臨床研究は医療を進展させ、国民の生命・健康を守っていくためには必要不可欠なものであり、医療に携わる者が負うべき重要な責務の一つと考えます。一方で、臨床研究を取り巻く環境は大きく変化しています。本邦で最近発生した臨床研究での諸問題により、適正かつ公正で質の高い臨床研究を行う事が求められるようになりました。その上で、参加いただく対象者に不利益が生じない十分な倫理的配慮やサポート体制も必要とされています。今後、当部署では、院内・院外の各部署と連携を取りながら、臨床研究に携わるスタッフの方々が適正かつ円滑に業務を遂行できるように支援させていただければと考えております。今後とも、ご指導、ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願い致します。

生殖医療センター新設紹介 生殖医療センター 部長 菅沼 亮太

「生殖医療センター」がオープン致しました。

2019年4月に附属病院内に中央診療施設として「生殖医療センター」が組織化されました。生殖医療の分野の技術の進歩・応用分野の拡大は目覚ましく、従来の生殖医療（不妊症治療）としてのみならず、着床前診断・スクリーニングや、配偶子・胚・組織凍結を含めたがん治療前の妊孕性温存療法などに高度な技術が広く応用されています。近年の最重要課題である、小児・AYA (Adolescent and Young Adult) 世代に対する妊孕性温存療法は、集学的治療が同一施設内で可能な大学病院等の地域拠点病院がその役割を担うべきであり、本県におきましては当施設がその役割をになうべきと考えております。センター化によって、関連する診療科（産婦人科、泌尿器科、若年がん治療における腫瘍内科や各診療科）が協力し、これまで以上に横断的かつ円滑な診療が可能となります。2019年4月現在、妊孕性温存療法として100例を超える精子の凍結保存と、10例の卵子・胚の凍結保存を実施しております。

今後も県民の皆様が安心して治療を受けられますよう、スタッフ一丸となって生殖医療センターとしての役割を

果たしていきたいと考えております。

「不妊相談専門センター」が開設されました。

不妊症の治療には、タイミング療法、人工授精（AIH）、生殖補助医療技術（ART）（体外受精・胚移植、顕微授精、凍結胚移植など）、手術療法などがあり、原因に応じた治療方法の選択が行われます。「不妊相談専門センター」では、医療機関の受診のタイミングや、検査・治療の相談など生殖医療関連の相談に幅広く対応致します。生殖医療専門医が丁寧に対応致しますので、どうぞお気軽にご利用ください。

（毎週・木曜日午後：完全予約制 2019年5月時点）



卵細胞質内精子注入法（ICSI）の実施風景 顕微授精用マイクロマニピュレーションシステム

「看護の日」に寄せて みらい3東病棟 菅野美智代

看護を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生にちなんで「看護の日」が制定され、各地で看護を身近に感じてもらえるような様々なイベントが行われています。当院でも、この記念すべき令和元年、5月16日に「看護は変わる、未来のために」をテーマに看護の日イベントを開催いたしました。

今回は、看護師による血圧、身長、体重、体脂肪測定や健康相談、正しい手洗いの方法が体験できるコーナーをはじめ、栄養士による栄養相談、理学療法士による腰痛体操や、ソーシャルワーカーによる生活相談など来場された方の健康に関する催しを多職種の協力のもと行いました。また、日々行われている看護の姿をたくさんの方にお伝えすることができればという思いから「小児医療センターでの毎日」の写真をパネルで掲載し紹介しました。

今回のイベントに参加していただいた方からは、「体脂肪測定は初めてです。すぐに結果がわかるんですね。」「健康相談ができてよかったです。」「また来年も来たいです。」など嬉しいお言葉をいただくことができ看護を身近に感じていただけたのではないかと思います。

来場された方々から、私たち看護職員に心温まるたくさんの方の「看護師への応援メッセージ」をもらい、頑張る力をいただきました。これからも県民の皆さまに寄り添った温かみのある看護を提供できるよう職員みんなで頑張っていきたいと思っております。ご参加くださいました皆様に職員一同感謝申し上げます。



スターバックスコーヒー 福島県立医科大学附属病院店

営業時間 平日 7時～20時
土日祝 9時～19時

アメリカ シアトル生まれのスペシャルティコーヒーストア。
高品質のアラビカ種コーヒー豆から抽出したエスプレッソがベースのバラエティ豊かなエスプレッソドリンクやバスター、サンドイッチをお楽しみいただけます。

すべてを地域のために

東邦銀行

ご利用・お問い合わせは **福島医大病院支店**
窓口営業時間：平日午前9時から午後3時
電話 024-548-5331（受付時間：平日午前9時から午後5時）